

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 031	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 トウモロコシ二期作栽培における作業分散方法	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 県内における自給飼料増産の方策のひとつとしてトウモロコシ二期作栽培が推進されているが、二作目の播種が遅れた場合には登熟不足や収量の低下が心配されている。これまでの研究では、このことに対して不耕起播種機の利用が推奨されているが、一時期に作業が集中化することにより適期の播種が困難な事例も見られている。そこで、作業の集中を回避するための栽培方法や品種の選定について検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 不耕起対応高速播種機を活用したトウモロコシ二期作の安定多収栽培技術の開発 (H27～H31)			
対応の内容等 本県を含む関東南部におけるトウモロコシ二期作では、1作目収穫から2作目播種までの期間が短期間であるため、天候や共同作業の都合により、2作目の播種が遅れて収穫時に登熟不足となることが散見されます。2作目が適期播種できずに登熟不足となった場合、収量やTDN含量の減少し、サイレージ品質の低下などの原因となります。 当所では、平成25年度から「新開発トウモロコシ不耕起播種機の性能実証試験」、平成27年度から「不耕起対応高速播種機を活用したトウモロコシ二期作の安定多収栽培技術の開発」を実施しており、省力的な栽培方法である不耕起栽培方法に適した播種深度や除草剤等の栽培方法、1作目収穫と2作目播種の作業分散のための品種選定方法などについて検討しています。 また、播種が遅れて登熟不足となった場合の収穫期について「高水分トウモロコシサイレージのサイレージ調製方法の検討 (H23～24)」において検討していますので、参考にしてください。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			